

ことばの教室 学習指導案

指導者 大岩 恵子

1. 対象児 側音化構音のA児

2. 学習内容について

(1) 児童の実態 (別紙参照)

【ことばの教室に入級以前】

○就学前は、療育センターに3年間通う。口蓋化構音であり、「タ、ダ、サ、ザ、ツ」音の発音練習を行っていた。舌を出さないで発音するフリートークだと、意識は難しい状態。イ列音が歪み、側音化している。舌が若干右後方により、緊張が強い。

○1年半作業療法で、体の使い方や運動面の指導を受ける。基本の姿勢が作れない状態であり、ボディイメージや、手先が未熟であった。気持ちの面でも、集中や関心がそれてしまいがちなところが見られた。苦手意識もあるので、支援をして意欲化も図るとよいというアドバイスをいただく。

○中耳炎になりやすく耳鼻科に通院。日常生活には支障がない程度であった。

【ことばの教室に入級当初のことばの様子】

○舌先で上唇をなめられない状態で、舌打ちができない。ポッピングは、少し音が出た。舌平らは、前から見るとできていたように見えたが、奥の方は緊張があり、ポコッと山ができた。「ア」音の時の舌の形が、山のように全体が盛り上がっていて、口蓋垂が見えない状態だった。

○聞く力は、側音化している音とそうでない音の違いは、わからない。置換していた音については、誤った音か正しい音かの聞き分けとして、「タ」と「カ」の違い、「ダ」と「ガ」の違いはわかった。(他は、調べていない)

○ラ行がガ行やナ行に、タ行がカ行に、ダ行がガ行に、サセソがシャ行やタ行に、ザゼゾがジャ行かガ行に、ツ音がク音に、ヤ音がナ音になった。言い直すと正しく言えた。イ列音が側音化していた。

【現在のことばの様子】

○1年時「イ」・S音、2年時「シ・ジ」音、3年時「チ・キ」音の学習と進めてきた。しかし、5月10日に「シ」音が戻っていたのを発見。練習している「チとキ」は気を付けるが、会話レベルでは、「シ」音の注意がいなくなっていた。(音読はできた)そして、夏休み明けの9月は、音読でも「シ」音が正しく発音できない状態。パンダカードで検査したところ、「ニンジン」「しんぶん」「じゃんけん」「じてんしゃ」が側音化していた。「キ・チ」音も意識があまりなく身に付いていない。フリートークの中では、発音した音全てではないが、(正しい発音の時もあった)「キ、ギ、シ、ジ、チ、リ、ヒ」各音が定着しておらず、側音化していた。

【通常学級での様子】(学級担任から見た10月の様子)

○(生活面) 個人情報のためカット

○(学習面) 個人情報のためカット

<実態の考察>1年生時は、舌先挙上ができず、上唇がなめられない状態で、いろいろな舌の体操もできなかった。加えて、奥舌に緊張があり舌平らも不十分であったので、舌の筋力、コントロール性を改善するため、舌の体操に取り組んだ。発音指導については、「タ・ダ・サ・ザ・ツ」など療育センターで習った音も間違えることがあったが、正しい音も出せていたので、続きの側音化していた「イ」音とS音

を重点的に練習した。その内に、口蓋化構音の誤り音はほぼ改善した。2年生時は、「シ・ジ」音を練習し、音読も会話も正しく発音することができるようになった。3年生は、「キ・チ」音の練習をしているところである。「チ」音は夏休み前に単語を練習した。「キ」音は、単音の練習をした。現在は、昨年できていた「シ」音がまた戻ったり、先週できた「チ」音（1～10まで風船をつきながら正しく数える）を今週は間違えたりするなど、学習したことがなかなか定着に至らないのを感じる。ことばの教室は、通算6年になり、「もう終わりにしたい、遊びたい。」という気持ちが強くなっている。いかに発音練習に興味をもたせ意欲化を図って定着まで進めていくかを考えなければならない。定着のためには、奥舌が拳上する癖がまだ残っているので、改善しないといけない。今まで、舌の体操カードを作り、舌の体操に取り組んできた。現在、もう少しだと思っているのは、舌尖を突き出すこと、舌打ちの音が弱い（舌尖の力）こと、舌平らをしていると、たまにポコッと盛り上がる（コントロール力）ことである。まだ不十分な力もあるが、以前より、できることは増えてきている。しかし、なかなか正しい発音につながらない傾向も感じている。指導前半の舌の動きをよくするための体操から、指導後半の正しい発音になるための体操へと変えていかないといけないことを感じている。実態に応じてどのような内容を行ったらいいか、内容、取り組み方を考えたい。また、現在「キ、チ」音の学習中だが、「シ、ジ」音も会話レベルでの定着には至っていないことがわかった。今回思い切って、「シ」音に戻って指導をすることにした。指導を振り返ると、舌出しして練習を始め、舌を収めてからの発音練習が足りなかったことを反省する。正誤判断する聞く力を育てることも十分ではなかった。「キ・チ」音の指導から、「シ」音の指導にまた戻ることで、本児の意欲が下がることも予想される。意欲をもって取り組めるように、指導の工夫をしていきたい。

（2）指導内容

戻りやすい原因としては、「奥舌が盛り上がる癖がまだ見られる」「自分の発音の正誤弁別がよくできない」「正しく発音したいという意欲が高くない」「まだ正しい発音に慣れていない。言いづらい」「特に舌尖の力が弱い」のではないかと、分析をする。上記のような実態を踏まえ、以下のような点を指導方針として考えた。

《発語器官の運動機能を高める》

スタートは、自由におしゃべりをし、会話を楽しんでいきたい。緊張しない雰囲気作りをする。

そして、本児は、舌の体操の時に舌をあまり見ていないことが多いので、始めに写真を見せて、できていない点を明確にし、目標をもって取り組めるようにする。見通しがもてるように、学習カードに実施する体操を書いておき、それを見ながら進められるようにする。学習カードは、よくできない体操、まだ力が弱い部位を鍛える体操、発音につながる体操を集めて作り直した。それを見ながら、奥舌を鍛えること、舌尖を強くすること、舌を平らにすることを重点目標にして行う。また、明記したポイントを見ながら、自主的に気をつけて行えるようにしていく。そして、発音につながるようにする。昨年を思い出すと、舌を収めると、緊張しやすかった。舌を収めても緊張しないで発音できるようにしていきたい。

《構音指導》

2年生時に習得した「シ」音だが、誤り音に戻ってしまった。舌を出して、息を出すところまで戻って再度単音の練習をし、「シ」の発音の仕方を想起させる。その後で、舌を収めても同じ音が出るか試し、出たら舌を収めて音節・単語・句・短文練習をしていく。厳しいようだったら、舌出ししたまま

で音節・単語・句・短文練習をしていく。正しく発音したいという意欲があまり高くないので、正しく発音できたら大いに褒め、正しい発音になりたいという気持ちを抱かせるようにする。

《弁別学習》

本児は、教師の発音は、正誤判断できるが、自分の発音は、わからないことが多く、自分の発音は、「完璧」と思っている。本時はまず、本人のフリートーク時の発音をビデオで撮ったものを正誤判断する。正しい時もあるが、間違っている時もあることに気づき、「シ」の学習に戻る。正しい発音もできるので、もう少し頑張ろうと励まし、意欲がもてるようにする。また、自分で「正しい音は、…で、間違っている音は…」と、説明ができるとよいと考えている。今までは、音読したものについての正誤判断を主に行ってきたが、フリートークを録音したものの正誤判断を行うことで、般化に向けての耳の力をつけていきたい。また、練習時は、ストローを使って発音し、風の音が入ったら正しい、風の音が入らなかったら間違いと本人にわかりやすくし、違いがはっきりとわかるようにして練習することを多くしていきたい。

本時の単語・句の練習は、「シ」音が入った動物の名前を読む学習クイズをし、楽しみながら発音練習をしていきたい。正しく発音ができたら褒め、正しい発音で話したいという向上意欲につながるようにしていきたい。クイズの中で正誤判断をし、正しく発音しようという意識も高めていきたい。

3. 学習の目標

- ① 舌を収めた「シ」音の発音の仕方を思い出し、正しく発音することができる。＜正確に発音する＞
- ② 教師、及び自分の発音の正誤を聞き分けることができる。＜聞く＞
- ③ 前向きな気持ちで発音練習の課題に取り組むことができるように、体を動かしながら練習したり、ゲーム化して練習したりする。＜関心・態度＞

4. 指導計画（週1回）

時期	指導期間を通して行う内容		段階を追って進める内容	心掛けること
	耳の訓練	発話器官の訓練	構音指導	
前	<ul style="list-style-type: none"> ○誤り音の弁別 ・正しい「チ」音と側音の「チ」音 ・正しい「キ」音と側音の「キ」音 	<ul style="list-style-type: none"> ○口の体操 ・口形に気を付けて母音の練習 ○舌の体操 ・舌の筋力を高める ・舌の動きをよくする ・ブローイング など ※上記の練習を、学習 	<ul style="list-style-type: none"> ○「チ」音の学習 (2年の3月より) ・構音位置、舌の形の確認 ・単音・無意味単音節練習 ・単語練習 語頭→語尾→語中 ※ 「チ」音が言いづらく、途中から、キ音の練習に切り替える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○特に話題は決めていないが、おしゃべりが好きな本児の、楽しかったことや近況報告などの話を聞き、緊張しない雰囲気作りをする。(教師

期	<p>※いずれの音についても、初めは教師の発音を弁別する。本人が正しい音で発音できるようになったら、録音した自分の発音で弁別する。</p>	<p>カードを見ながら毎時間行う。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;">シ・ジ音が戻ったため中断</p>	<p>○「キ」音の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構音位置、舌の形の確認 	<p>は、ことばの調子を見ることにも活かす)</p>
後期	<p>○誤り音の弁別</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しい「シ」音と側音の「シ」音 <p>※録音をした自分の発音で正誤弁別する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「キ」音（「シ」音と同様） ・「チ」音（「シ」音と同様） 	<p>○発音につながる舌の体操</p> <ul style="list-style-type: none"> ・舌平ら ・舌打ち ・アイウベー（口形と舌の形） ・バタフライポジション ・フルフル○○ ・バケット ・シツ・シタなど <p style="text-align: right;">ほか</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;">ジ・リ・ヒ音など次年度</p>	<p>○「シ」音の学習（5時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構音位置、舌の形の確認 ・単音・無意味単音節練習 ・単語練習 ・短文練習 ・長文練習 <p>○「キ」音の学習（5時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単音・無意味単音節練習 ・単語練習 ・短文練習 ・長文練習 <p>○「チ」音の学習（5時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単音・無意味単音節練習 ・単語練習 ・短文練習 ・長文練習 	<p>○「シ」音が安定したら、体を動かしながら練習をしたり、ゲームをしながら練習をしたりして、楽しく取り組めるようにする。</p> <p>○「ジ」音も同様</p> <p>○「キ」音も同様</p>

5. 本時の指導（1／8）

- (1) 目標
- 「シ」音の入った単語を、正しく発音することができる。
 - 教師や自分の発音した「シ」音の正誤弁別を聞き分けることができる。
 - 動物クイズに関心をもって、意欲的に発音練習に取り組むことができる。

(2) 展開

学習活動と内容	教師の支援	資料等
---------	-------	-----

<p>1 おしゃべりを楽しむ。</p> <p>2 本時の目標と学習内容を設定する。</p> <p>①前時の本児が映っているビデオを見る。</p> <p>②自分の発音の正誤判断をする。</p> <p>③正しい「シ」音と、間違った「シ」音の違いを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・間違った「シ」音は、息がもれているような音がする。 ・正しい「シ」は、息が真ん中から出る。舌の形は、バタフライポジション。 <p>④本時の目標と、内容を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自由におしゃべりをし、緊張しないで学習に取り組めるようにする。 ・学習予定を書き、見通しがもてるようにする。 ・「シ」音の入った言葉だけ集め、「シ」音の発音を集中して聞くように話す。 ・正しい発音と、間違った発音の混ざった映像を見せ、本児に正誤判断させる。 ・間違った発音だと気づいたら褒める。気付かなかっただら、教師が真似をして気付かせるようにする。 <p>◇ビデオを見て、「シ」音の正誤判断をすることができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「チ・キ」音は、少しお休みして、今日は、「シ」音だけ、集中して行うことを告げる。 ・構音の仕方は、わかりやすいように絵に描いて掲示できるようにしておく。 	<p>コンピュータ</p> <p>「シ」の発音のポイントを書いた掲示物</p>
<p>「シ」を正しく発音して、「動物クイズ」をしよう。</p>		
<p>3 口や舌の体操をする。</p> <p>①前時の体操の写真を見る。</p> <p>②学習カードを見ながら進める。</p> <p>あえあえ バケット 舌平ら フルフル○○ 前へならい シツシツ・シタシタ・スシスシ など</p> <p>ポイント(バタフライポジションなど)</p> <p>4 「シ」の入った動物の名前を正しい発音で読む。</p> <p>「シロクマ」「アシカ」「シロナガスクジラ」「アミメニシキヘビ」などの単</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の舌の体操の様子を見せ、舌の脱力や、舌の動きがまだよくないことを知る。 ・学習カードに書いてあるポイントに気をつけて行うよう、声をかける。 ・舌平らは、鏡をじっと見られないことが多いので、舌の上に、ふわふわせんべいを棒状に切ったものを置き、集中して見るようにする。 ・「シ」音は、ストローで、息が真ん中から出ているか、正しい発音かどうか確認しながら行うようにする。 <p>◇「シ」音を、正しく発音することができたか。</p> <p>◇動物の名前を、正しい「シ」音で発音することができたか。</p>	<p>写真 鏡 ペンライト ふわふわせんべい ストロー シール</p>

<p>語練習をする。</p> <p>5 問題を交互に読み、本児が答えのカードを見つける。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>⑤ 全身、白い毛。ぶあつい脂肪みじかい足</p> <p>⑥ いわし、あじ、プランクトンを食べる。そんざいしている、動物の中で一番大きい。他</p> </div> <p>・ I Cレコーダーを聞きながら、正誤の判断、評価をする。</p> <p>6 今日の読みについて振り返り、本時の感想や次回の目標について話をする。</p>	<p>・教師は、わざと間違えて気付かせるようにする。</p> <p>◇教師が「シ」音の発音を誤ったことに気づいたか。</p> <p>◇問題文を、正しい「シ」音で音読することができたか。</p> <p>・ I Cレコーダーにとって、振り返り、正しく発音できたかどうか自己評価をする。評価できなかった時は、教師が教える。</p> <p>・間違えた発音があったら練習して、できたという気持ちで終わるようにし、次時への意欲につなげる。</p> <p>◇楽しかった感想を話したり、意欲的に取り組んだりする姿が見られたか。</p>	<p>I Cレコーダー</p> <p>ピンポンプのブザー</p>
---	---	----------------------------------